『樅の木荘』建て替え計画の見直しについて

～これまでの経過～

- 平成25年11月に村民アンケートを実施（調査結果を広報紙に掲載）し、翌年3月には村民懇談会を実施しました。アンケートでは、63.7%の方が存続に賛成との結果が出ました。
- アンケートの結果をふまえ、今後のあり方について話し合う「樅の木荘検討委員会」を設置し、計6回の会議を行いました。平成26年11月17日に、新築が望ましいとの答申を受けました。
- 答申に基づき、「樅の木荘建設委員会」を設置し、機能面・経営経費・運営方法等を計10回にわたり検討しました。平成28年7月8日には、最終案がまとまり報告をいただきました。
- 今年8月には住民説明会を開催し、基本構想のトータルコンセプト案についてご説明しました。

～現在の検討状況と今後について～ 〈村長の報告〉

これまで村として、建設費の検討がなされていない状況でありましたが、ここで最終案が示され試算したところ、付帯工事を含めて約10億円の予算が見込まれます。今後の東京オリンピック等に伴う建設費の上昇等を勘案すると、更に2割ほど工事費が増大することが予想されます。

県の市町村課に確認したところ、補助及び公的な起債についてはできないとのことです。村としては、今の健全財政を維持していく上で資金計画を見極め、原村に合った規模の見直しが必要と考えます。

以上の状況から、今回建設委員会から報告のあった規模の建設は難しく、再検討が必要であるとの結論に至りました。今後、建設委員会で提案いただいたトータルコンセプトを勘案しながら、建設規模の縮小等を含めて検討していきたいと考えております。

《懸案事項》

①宿泊施設については、総務省事務次官通知によると、「独立採算制の原則から民営化すべきで、民間に任せるのが合理的である。」この趣旨からして補助はない。
②公的資金による起債（借金）はできず、民間資金の借入になる。健全財政の観点から、縁故債（銀行等引受地方債）、民間からの借入は望ましくない。
③民間等資金は銀行からの一般の借金であり長期借入が難しい。
④樅の木荘建設に使える基金は、保健休養地管理事業基金の約1億7,700万円と財政調整基金約11億円（この内、一部しか樅の木荘の建設には使えない）があるが、工事経費が増大すれば銀行からの借入が必要となる。
⑤2020年の東京五輪と重なるため、資材高騰や工事費の上昇により事業費は2割ほど膨らむ見通し。
⑥新築するのであれば、建設経費を抑えることが必要と思われる。

《今後の予定》

施設規模や機能を含めた見直しにより、既存施設の改修か規模縮小での新築か、一度立ち止まって再検討の方向となります。また、既存施設の改修には耐震補強と施設改修が必要であり、その前段階として耐震診断が必要不可欠となります。耐震診断の実施には数か月かかり、診断後の補強計画にも時間を要します。

平成28年12月　議会に耐震診断経費の補正予算案上程
平成29年3月　診断結果報告
平成29年4月以降　診断結果に基づき樅の木荘建設は既存施設の改修か規模縮小での新築かについて試算を含めた検討を開始

改修案については詳細設計を必要としますが、試算をもとに、規模縮小新築案と比較しながら再検討します。方向性がはっきりしてから設計・工事の段階へ進みますが、現在は未定です。八ヶ岳中央高原全体のブランドイメージやコンセプト案の修正、財政計画の確立等を再検討しながら推進します。

～村長の報告に対する建設委員会からの意見～

- 住民アンケートをとった頃とは状況が変わってきている。健全財政を考える中で建設委員会のコンセプト案を参考にしてほしい。
- 当初の委員会で、「予算にこだわりすぎないで良いものを検討してほしい」との意見があったが、予算を加味して総合的に良いものを作ってほしい。将来赤字になるような施設は作るべきではない。
- コンセプト案の将来的な展望をふまえてマーケティング、経営についても検討されたい。